

# 生体と薬物Ⅱ

オーガナイザー

薬理学講座 教授 西谷友重

M-03-05-L

## 教員名

薬理学講座

教授 西谷友重

講師 陳以珊

講師 納富拓也

助教 安田純平

分子病態解析研究部

教授 橋本真一

助教 今福匡司

## I 授業の目的

疾病の予防・診断・治療において、的確な薬物使用を行うために、薬物・毒物の生体への作用について、個体・細胞・分子レベルにおける作用機序および生体と薬物分子との相互作用に関する基本的知識を身に付け、代表的な薬物について、その薬理作用と有害作用、作用機序および投与時の注意事項を理解する。

## II 到達目標

### 総論

1. 処方箋の書き方、服薬の基本・アドヒアランスを説明できる。

### 各論

1. 中枢神経作用薬（抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン治療薬、アルツハイマー病治療薬、全身麻酔薬、抗痙攣・てんかん薬、催眠薬・睡眠薬、オピオイド鎮痛薬、発達障害治療薬など）の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。
2. 循環器作用薬（強心薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬、降圧薬）の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。
3. 呼吸器作用薬（喘息治療薬、鎮咳・去痰薬）の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。
4. 消化器作用薬（潰瘍治療薬、消化管運動作用薬）の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。
5. 腎泌尿器・生殖器作用薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。
6. 血液・造血器作用薬（貧血治療薬、抗凝血薬、血栓溶解薬、抗アレルギー薬）の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。
7. 代謝性疾患（糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症・痛風）治療薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。
8. 抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。
9. 主な薬物の有害事象を概説できる。

### 実習

1. 実習に積極的に参加し、これまで学んだ知識と実習で得られたデータを関係づけることができる。

## III 教育内容

講義日程表の項目欄に記載

2. 実習項目と担当者（予定）

- |                              |       |
|------------------------------|-------|
| 1. 血圧、心拍数に及ぼす薬物の作用(シミュレーション) | 西谷    |
| 2. 腸管平滑筋に作用する薬物の作用(シミュレーション) | 陳     |
| 3. 中枢神経作用薬                   | 納富    |
| 4. 抗炎症薬                      | 安田    |
| 5. 抗腫瘍薬                      | 橋本、今福 |

IV 学習および教育方法

講義

各論：種々の生理機能および病態に作用する薬物について学修する。

実習（80時間）

動物個体における薬物に対する生体反応を観察し、薬物作用の何であるかを知る。  
 PCシミュレーションを用いて薬物反応を観察し、各種薬物の薬理作用を学修する。  
 分子病態解析研究部と分担する。

V 評価の方法

講義： 原則、筆答試験とする。全テストに合格すること（60点以上）で単位を認める。再試験・追試験に関しては、講義への出席点を考慮し受験資格を与える。原則的に公共交通機関の遅延・忌引き、等を除き体調不良等は欠席届を受理しない（欠席扱とする）。

実習：実習への取り組み姿勢、レポートを評価の対象とする。欠席が一項目でもある場合は単位を与えない。無断欠席者には履修の認定をしない。ただし、欠席届の内容を吟味の上、許可されたものには欠席者課題を与え、それを用いて評価する。

最終成績は、各試験の平均に、実習評価点を加えて換算する（試験85%、実習レポート15%）。

VI 推薦する図書

- 今井正/宮本英七 監修、飯野正光/鈴木秀典 編集；標準薬理学、第8版、医学書院
- 薬が見えるVol1－Vol14、第2版、Medic Media
- Goodman and Gilman' The Pharmacological Basis of Therapeutics、12th ed. McGraw Hill、New York
- 田中千賀子、加藤隆一、成宮周；NEW薬理学、第7版、南江堂
- 渡邊裕司；ハーバード大学講義テキスト 臨床薬理学、原書3版、丸善

VII. オフィスアワー

薬理学 水曜日 17:00～18:00

【連絡方法】 事前連絡不要（担当：納富拓也）

【実施場所】 研究棟6階 薬理学教室

【備考】 質問内容によっては各講義担当の教員が対応いたします。

卒業時コンピテンス	1 基盤的資質				2 医師としての基本的資質				3 コミュニケーション能力				4 医学的知識										5 医学の実践										6 医学的(科学的)探究				7 社会貢献							
	問題解決型能力	情報技術	語学能力	社会人としての一般教養	倫理観	チーム医療	自己啓発	人間関係の構築	他者の思いやり	情報交換	細胞の構造と機能	人体の構造と機能	人体の発達・成長・加齢・死	疾病の機序と病態	検査・画像診断技術	基本的診察知識	疾病の診断・治療方法	EBMの利用	生物統計・疫学	行動科学 医療経済	法令 研究倫理	患者尊厳	基本的臨床技能	臨床推論 検査所見 画像診断	診療録作成	治療選択	救急医療	緩和・終末期 看取りの医療	介護と在宅医療	患者説明	医療安全 感染予防	予防医学	副作用 薬害	副作用 薬害	ブレイン・トレーニング技能	和歌山県医療	保健制度	基礎医学研究	臨床医学研究	社会医学研究	研究成果の公表	研究倫理の実践	地域貢献	福祉活動
	D	D	D	D	E	F	D	E	E	D	D	D	D	F	F	F	D	F	F	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	D	D	D	F	F	C	F	F	C	D	F	F	F	

## 講義日程表

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.3.27	(木)	3	各論 13(中枢神経作用薬 1__パーキンソン病治療薬)	薬理学	陳
2	R7.3.27	(木)	4	各論 14(中枢神経作用薬 2__アルツハイマー病治療薬)	薬理学	陳
3	R7.4.3	(木)	3	各論 15(中枢神経作用薬 3__抗痙攣・抗てんかん薬)	薬理学	安田
4	R7.4.3	(木)	4	各論 16(中枢神経作用薬 4__催眠薬・睡眠薬)	薬理学	安田
5	R7.4.10	(木)	3	各論 17(中枢神経作用薬 5__抗精神病薬)	薬理学	陳
6	R7.4.10	(木)	4	各論 18(中枢神経作用薬 6__抗うつ薬)	薬理学	陳
7	R7.4.16	(水)	1	各論 19(中枢神経作用薬 7__発達障害治療薬)	薬理学	陳
8	R7.4.16	(水)	2	各論 20(中枢神経作用薬 8__全身麻酔薬)	薬理学	安田
9	R7.4.23	(水)	1	予備		
10	R7.4.23	(水)	2	各論 21(局所麻酔薬)	薬理学	陳
11	R7.4.24	(木)	3	各論 22(脂質異常症治療薬、リウマチ治療薬)	薬理学	西谷
12	R7.4.24	(木)	4	各論 23(消化性潰瘍治療薬)	薬理学	西谷
13	R7.5.7	(水)	1	各論 24(抗アレルギー)	薬理学	納富
14	R7.5.7	(水)	2	各論 25(喘息治療薬)、各論 26(鎮咳・去痰薬)	薬理学	納富
15	R7.5.8	(木)	3	各論 27(血糖降下薬)	薬理学	西谷
16	R7.5.8	(木)	4	各論 28(通風治療薬)	薬理学	西谷
17	R7.5.14	(水)	1	予備		
18	R7.5.14	(水)	2	各論テスト		
19	R7.5.15	(木)	3	各論 29(循環器作用薬 1__高血圧治療薬)	薬理学	西谷
20	R7.5.15	(木)	4	各論 30(循環器作用薬 2__抗狭心症薬)	薬理学	西谷
21	R7.5.21	(水)	1	各論 31(循環器作用薬 3__心不全治療薬)	薬理学	西谷

22	R7.5.21	(水)	2	各論 32(循環器作用薬 4__抗不整脈薬)	薬理学	西谷
23	R7.5.22	(木)	3	各論 33(抗悪性腫瘍薬 1)	薬理学	納富
24	R7.5.22	(木)	4	各論 34(抗悪性腫瘍薬 2__分子標的薬)	薬理学	納富
25	R7.5.28	(木)	1	各論 35(免疫抑制薬)	薬理学	陳
26	R7.5.28	(木)	2	各論 36(催吐薬・制吐薬)	薬理学	陳
27	R7.5.29	(水)	3	特別講義(創薬のパラダイムシフト)	薬理学	学外講師
28	R7.5.29	(水)	4	特別講義(処方箋の書き方)	薬理学	学外講師
29	R7.6.4	(水)	1	各論 37(利尿薬)	薬理学	西谷
30	R7.6.4	(水)	2	各論 38(生殖器作用薬)	薬理学	安田
31	R7.6.11	(水)	1	各論 39(血液造血器系作用薬 1)	薬理学	陳
32	R7.6.11	(水)	2	各論 40(血液造血器系作用薬 2)	薬理学	陳
33	R7.6.18	(水)	1	各論 41(脳梗塞治療薬・脳循環賦活薬)	薬理学	安田
34	R7.6.18	(水)	2	予備		
35	R7.6.30	(月)		本試験		